



問 子どもの 7人に1人が貧困状態

答 健康状態など注意深く状況を把握



みすずの会
恵利 いつ 議員

問 途上国にみられる絶対的貧困と違い、日本の相対的貧困は一見わからない。子どもの貧困問題に対する村の対応は。

答 子どもの日常的な様子の観察・把握から世帯全体に視野を広げた支援が必要と考えている。福祉・教育のみならず収税部門とも連携し、早期発見に努めている。民生・児童委員等の地域の方の見守りも大きな支えである。世帯の自立に向けた相談支援のほか、生活保護の適用、各種貸付金貸与、入学準備金や就学援助資金の支給があ

る。児童生徒が等しく教育を受けることができるように支援する。

問 乳幼児の貧困問題は見落とされがち。

答 乳児健診時にアンケートを実施し、経済的問題の把握にも努めている。村民相談室など適切な相談先につながることもある。また、昨年4月に「はぐくみ」を開設した。



絆に開設した「はぐくみ」は個室
担当者は一人ひとりに寄り添う
気持ちで相談にのっている

問 全国では、居場所作りの一環として「子ども食堂」が急増中。地域でそのような事業に取り組もうとする機運が盛り上がったときの考えは。

答 行政としても応援したい。

問 エスディージーズ SDGsの推進を提案する

答 具体化に取り組む



公明党
植木 伸寿 議員

問 今後の、住民自治の向上や「協働」のための取り組みを伺う。

答 村内にも数多くの団体があり、それぞれの得意分野で活躍されている。この方々が地域活動に参加できるような仕組みを作りたい。平成30年度は、村と各自治会長が情報共有する機会をふやし、一人で多くの役割をするのではなく多くの人に少しずつ役割を担ってもらうよう推進したい。

問 いつまでも住み続けられるまちづくりに向け、国連で定め推進しているSDGsの取

り組みがある。村でも取り入れることを提案したい。

答 SDGsは日本語訳で「持続可能な開発目標」とされ、17項目の目標からなっている。この中の11番目「住み続けられるまちづくりを」の項目が村で進めている取り組みの範疇になると考える。国は、「持続可能で強靱、そしてだれ一人取り残さない、経済・社会・環境の統合的向上が実現された未来への先駆者を目指す」ことをビジョンとして掲げている。村でもその具体化に取り組みたいと考える。



持続可能な開発目標